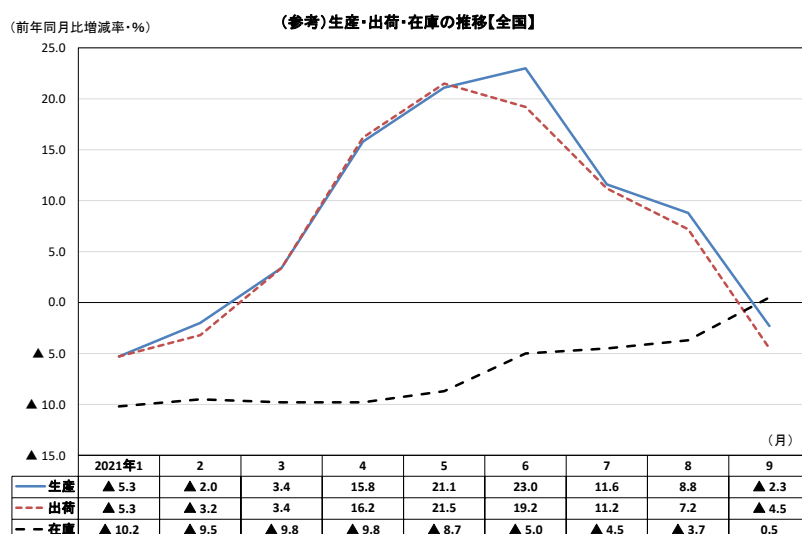
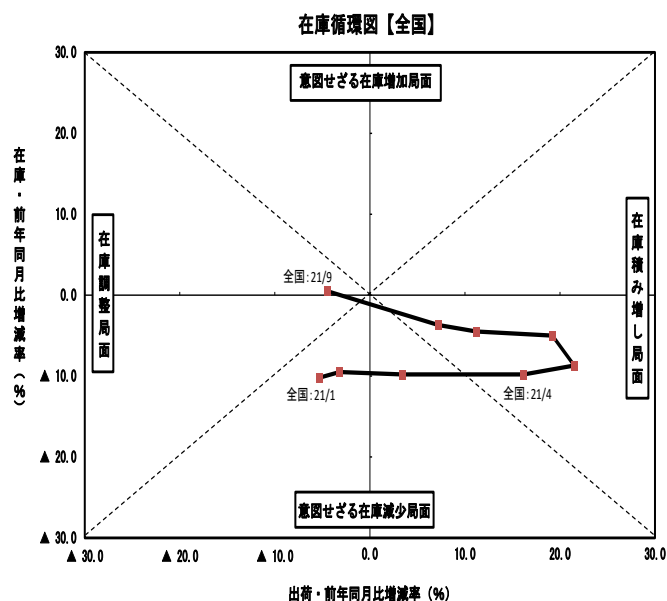


2. 全国の動き

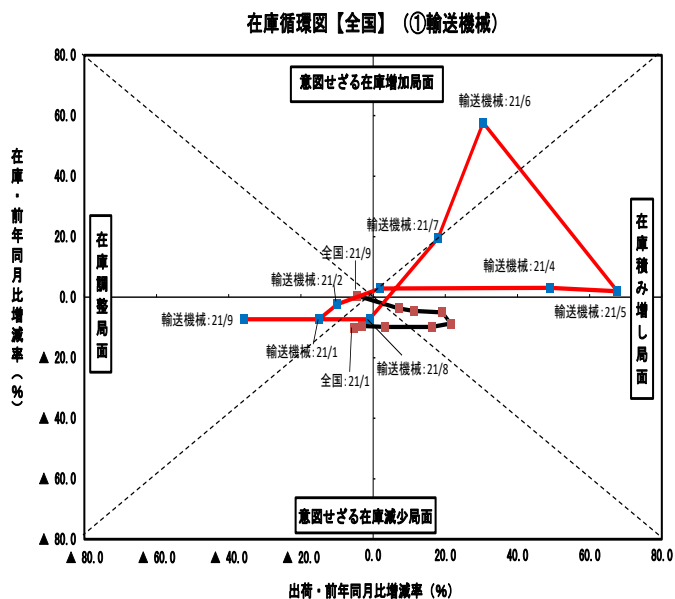
(1) 全体の「在庫循環図」

- 今年1月から直近の9月までの鉱工業の出荷指数と在庫指数の各前年同月比から作成した全国の「在庫循環図」は、完全な形とはいえませんが反時計回りの動きを示し、景気拡張期のなかで4月以降、「意図せざる在庫減少局面」から「在庫積み増し局面」の方向にシフトし、9月は一転、「在庫調整局面」に移行した。これは、出荷が2月以来のマイナス（前年同月比▲4.5%）、在庫が微増（同+0.5%）、生産がマイナス（同▲2.3%）となり、景気後退期に入ったためとみられる。今後、このまま出荷がマイナスで推移するか、生産が回復し在庫が積み上がってくるか、動向を注視する必要がある。



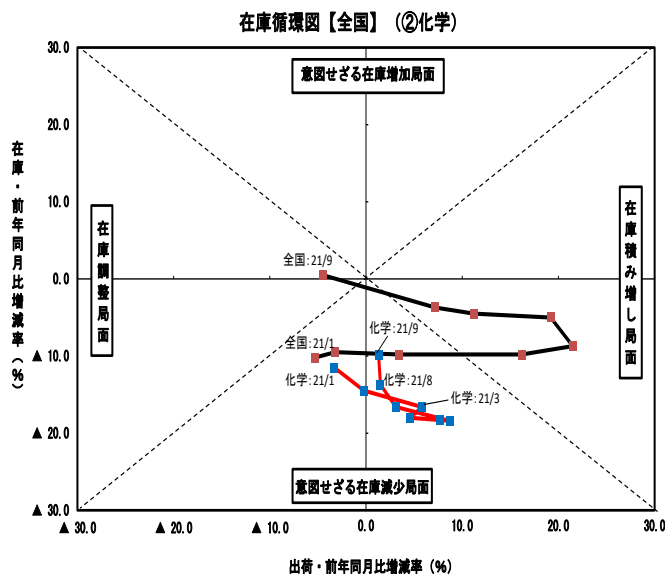
(2) 「輸送機械」の動き

- 次に、主要な業種別に「在庫循環図」をみるため、「工業統計調査」（経済産業省）の「製造品出荷額等」の構成比の上位3業種を順にみると、最もウエイトの高い「輸送機械」については本来の反時計回りの動きは認められないが、4月から7月は出荷が大きく伸び、増産したため、在庫が増加し「在庫積み増し局面」ないしは「意図せざる在庫増加局面」となったが、9月は出荷が大幅減となったため「在庫調整局面」に入った。今後は、半導体不足や部品の供給制約の影響が徐々に解消し、需要増に対応すべく出荷増を図り、増産に向かうとみられる。



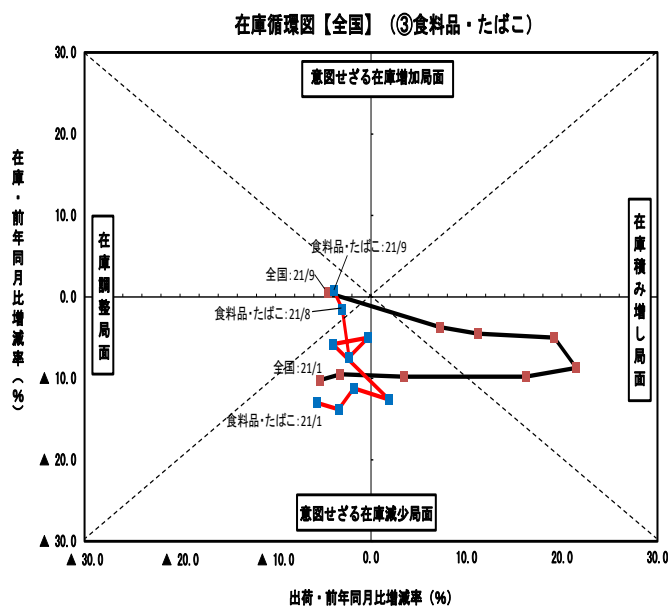
(3) 「化学」の動き

- 次にウエイトの高い「化学」は、長引くコロナ禍のなか、3月以降、出荷の増加がみられ、増産が続いているが、需要の増加に追いつかず、在庫指数の伸びはマイナスが続いており、引き続き「意図せざる在庫減少局面」にある。今後は、いつ頃から更なる増産に向かい、「在庫積み増し局面」に入るかが注目される。



(4) 「食料品・たばこ」の動き

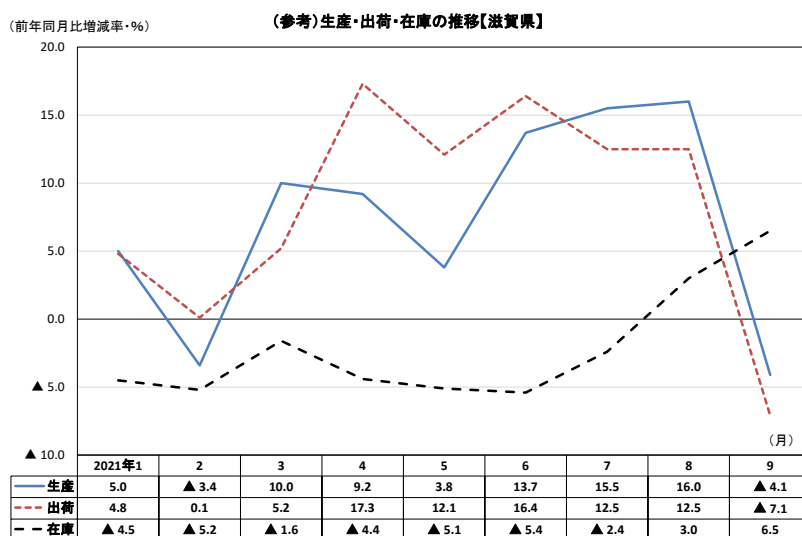
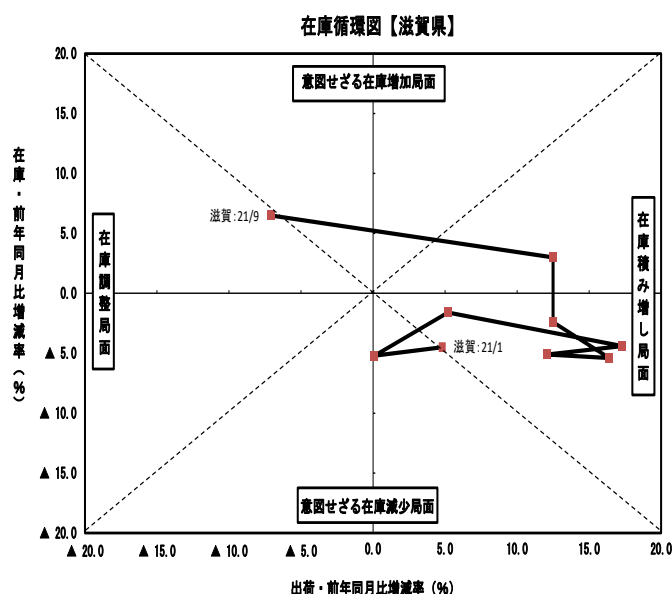
- 3番目にウエイトの高い「食料品・たばこ」は、これも長引くコロナ禍の中、家庭用の需要は堅調なもの、業務用の需要が弱いため出荷が伸びず、在庫が徐々に積み上がり、8月以降「在庫調整局面」に入ってきた。今後は、「緊急事態宣言」解除後の業務用需要の回復が期待され、出荷の増加に対応した増産による「在庫積み増し局面」にシフトしてくるかどうかポイントとみられる。



3. 滋賀県の動き

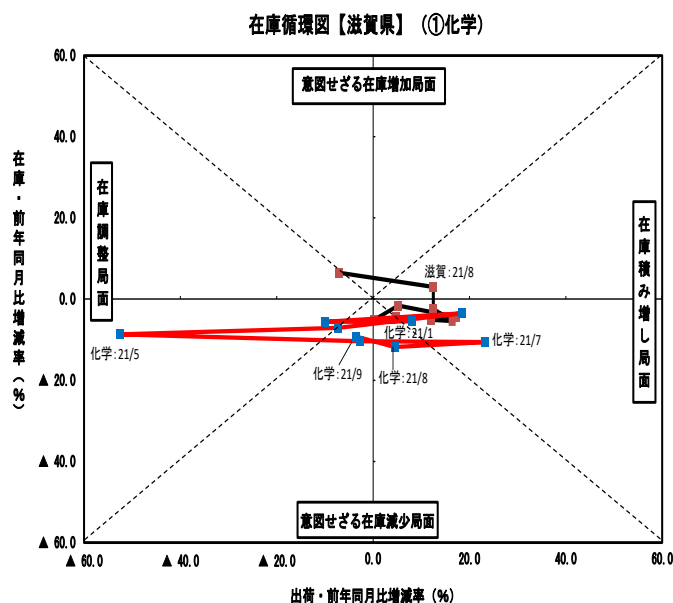
(1) 全体の「在庫循環図」

・滋賀県の「在庫循環図」をみると、これも完全な形ではないが、反時計回りに近い動きを示している。詳しくみると、出荷が4月以降、大幅に増加し、在庫が引き続き減少しているため、生産はとくに6月以降、大幅の増加となり、「在庫積み増し局面」が続いた。しかし、9月は出荷が伸びず（前年同月比▲7.1%）、在庫が増加（同+6.5%）したため、「在庫調整局面」入りとなった。今後については、需要の回復に伴い、出荷が増加に転じ、在庫が減少し、それに伴い生産が再び回復し、いつ頃から「意図せざる在庫減少局面」に入るかが注目される。



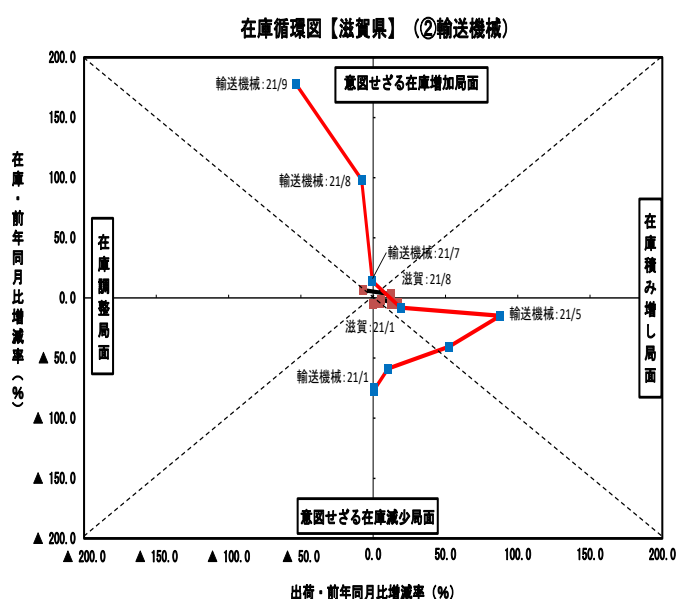
(2) 「化学」の動き

- ・滋賀県の「製造品出荷額等」で最もウエイトの高い「化学」をみると、長引くコロナ禍のなか、医薬品を中心に需要が根強いいため、在庫の減少が続き、「意図せざる在庫減少局面」にある。今後については、医薬品に加え化粧品などの需要の増加に備えて増産に向かい、「在庫積み増し局面」に入ってくるとみられる。



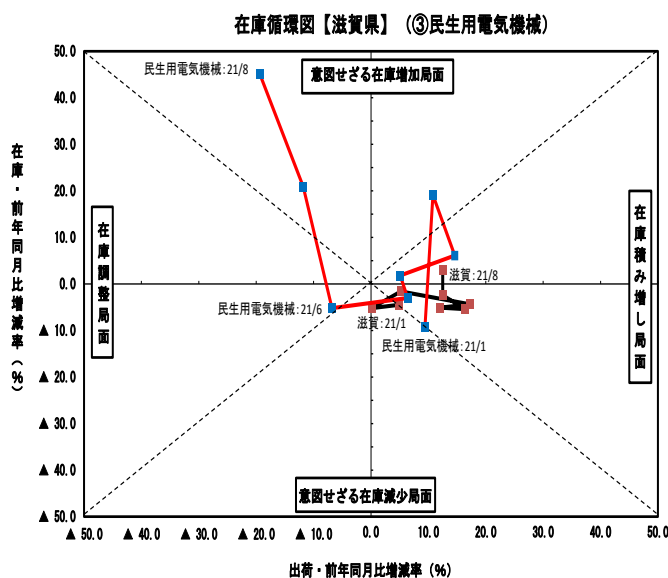
(3) 「輸送機械」の動き

- ・次にウエイトの高い「輸送機械」では、5月まで出荷が大幅に増加し、在庫は減少傾向となっていたが、7月以降、出荷が減少し在庫が増加に転じ、「意図せざる在庫増加局面」に入った。今後は、部品の供給制約の影響が長引くため、生産が減少し在庫が減少していく「在庫調整局面」に入っていくとみられる。



(4) 「民生用電気機械」の動き

- 3番目にウエイトの高い「民生用電気機械」では、5月までは出荷が増加したため、需要の増加に備え増産が続き、「在庫積み増し局面」にあったが、6月以降は出荷が減少したため、7月、8月と「意図せざる在庫増加局面」となっている。今後は、減産を続けながら在庫を減らしていく「在庫調整局面」に入っていくとみられる。



(5) 今後の見通し

- 以上の「在庫循環図」の動きから今後の県内製造業の動きを見通すと、県全体としては9月になり、出荷が伸びず在庫が増え、減産に向かい、一転「在庫調整局面」に入ったが、このまま出荷が伸びず停滞すると「在庫調整局面」が続くことになる。いつ頃から出荷が伸び、増産に向かうかが一つのポイントになると思われ、今後の内外需の動向や国の経済対策の効果などが注目される。
- 業種別にみると、県内で最もウエイトの高い「化学」は根強い医薬品の需要に加え、コロナ禍の影響が徐々に薄れてくるとともに再び化粧品などの需要が回復し、増産に向かい、「在庫積み増し局面」に入ってくるものと考えられる。一方、「輸送機械」と「民生用電気機械」はともに出荷の減少により意図せざる在庫が増加しているが、輸送機械は半導体不足や部品の供給制約の影響がしばらく残り、生産が減少し、在庫が減少するため、「在庫調整局面」に入っていくと考えられる。また、民生用電気機械はコロナ禍で需要を先取りした部分があるため、国の経済対策などの大きな需要の増加が見込めなければ在庫調整に入ると思われる。今後の動向を注視する必要がある。

4. 主要な工業県の動き

- ・参考として、全国の主要な工業県の在庫循環図の動きを分析した。なお、県によって鉱工業データの発表時期にズレがあるため、統一して8月までのデータ分析とした。
- ・主要な工業県については、「県民経済計算」（2017年度）における「第2次産業」の構成比が40%以上の、滋賀県を含め下表の8県とした。
- ・また、分析する対象の業種については、それぞれの「工業統計調査」（2018年）から、下表の通り「製造品出荷額等」の構成比の上位3業種を選定した。

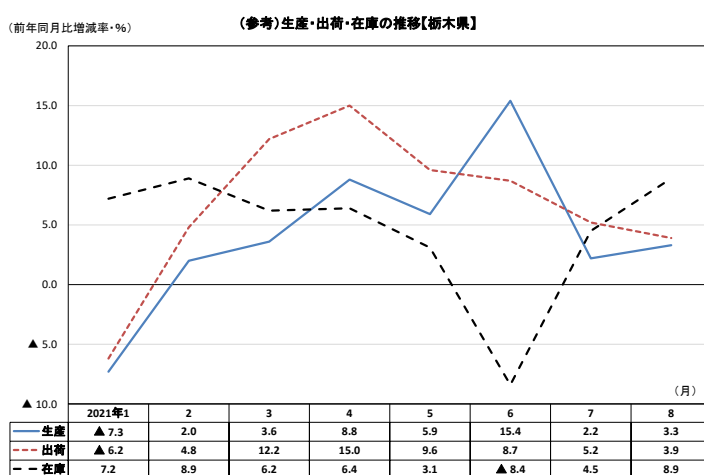
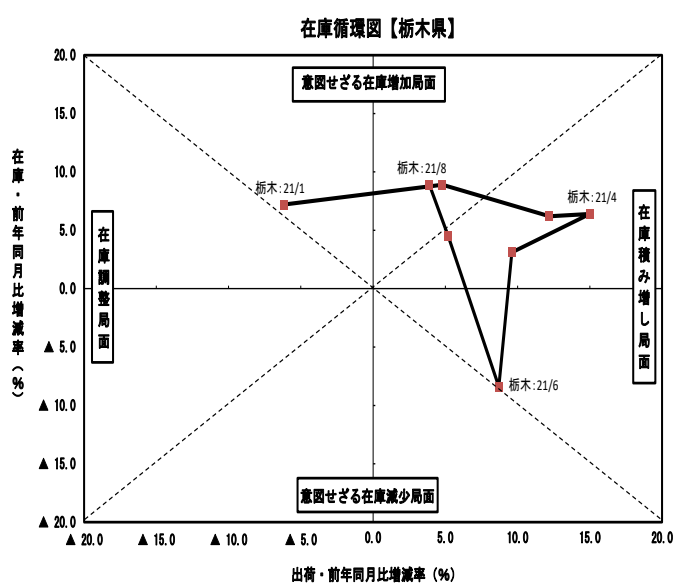
主要な工業県の抽出と対象業種の選定

順位	県名	第2次産業の 構成比（%）	対象3業種		
1位	滋賀	47.8	化学	輸送機械	民生用電気機械
2位	栃木	47.3	輸送機械	電気機械	生産用機械
3位	群馬	44.1	輸送機械	食料品	化学
	静岡		輸送機械	電気機械	化学
5位	三重	43.1	輸送機械	電気機械	化学
6位	愛知	42.2	輸送機械	電気機械	食料品
7位	山口	41.9	化学	輸送機械	鉄鋼
8位	茨城	40.4	食料品・たばこ	化学	生産用機械
全国	—	27.8	輸送機械	化学	食料品・たばこ

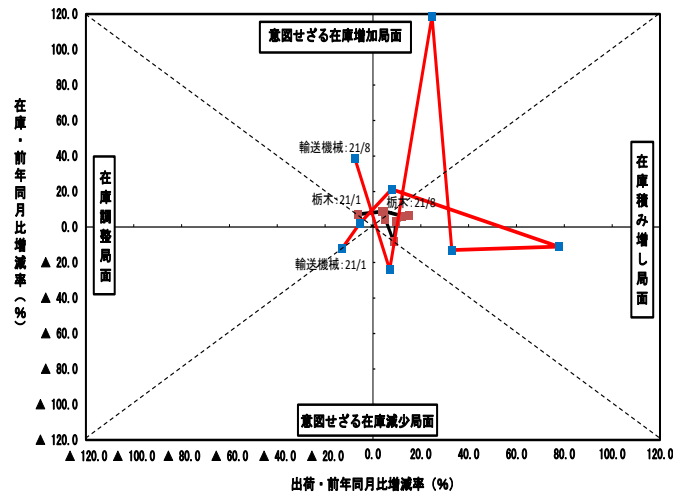
（出所）内閣府「県民経済計算」（2017年度）、経済産業省「工業統計調査」（2018年）

(1) 栃木県の「在庫循環図」

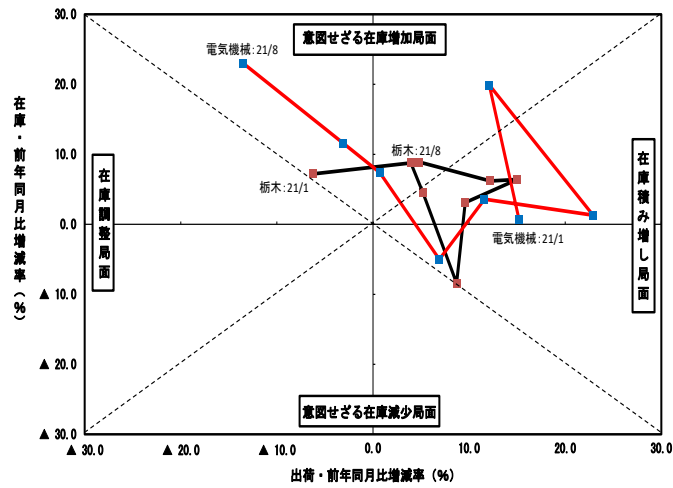
- ・県全体の「在庫循環図」は、1月から6月まで、本来の反時計回りとは逆の動きを示したが、7月から8月にかけては出荷の伸びが鈍化し、在庫が積み上がり、「在庫積み増し局面」から「意図せざる在庫増加局面」にシフトした。
- ・本県で最もウエイトの高い「輸送機械」は7月までは出荷の大幅増加により在庫の減少や増産による在庫の積み増しがみられたが、8月は一転、出荷の減少と在庫の増加から「意図せざる在庫増加局面」に入った。
- ・なお、本県には輸送機械では日産自動車㈱の栃木工場（上三川町）や本田技研工業㈱のエンジン・ミッション部品等の生産工場（真岡市）など、電気機械ではパナソニック㈱アプライアンス社の液晶テレビなどの生産工場（宇都宮市）、日立グローバルライフソリューションズ㈱のルームエアコン、冷蔵庫などの生産工場（栃木市）などが多数立地している。



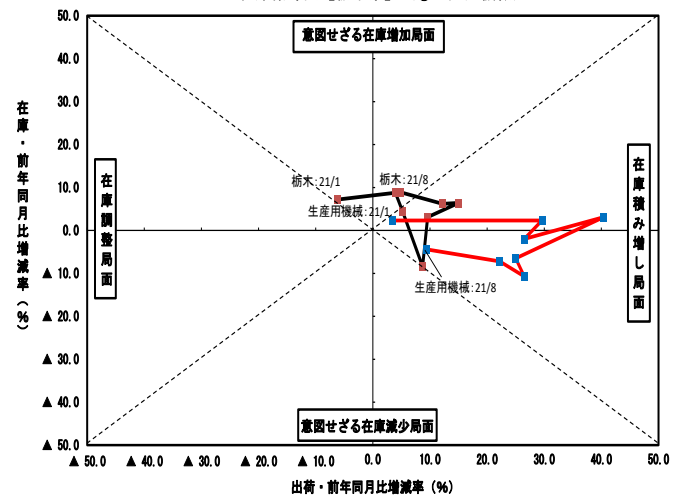
在庫循環図【栃木県】①輸送機械



在庫循環図【栃木県】②電気機械

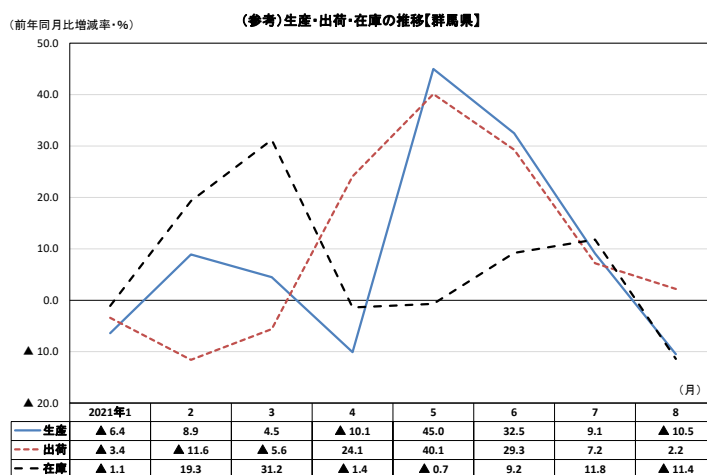
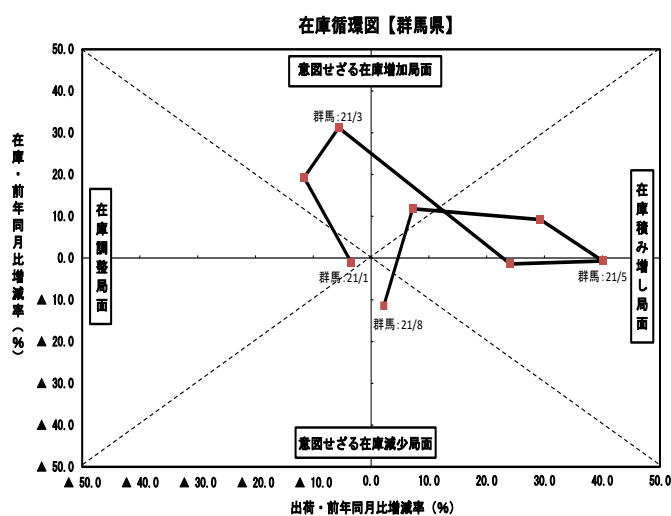


在庫循環図【栃木県】③生産用機械

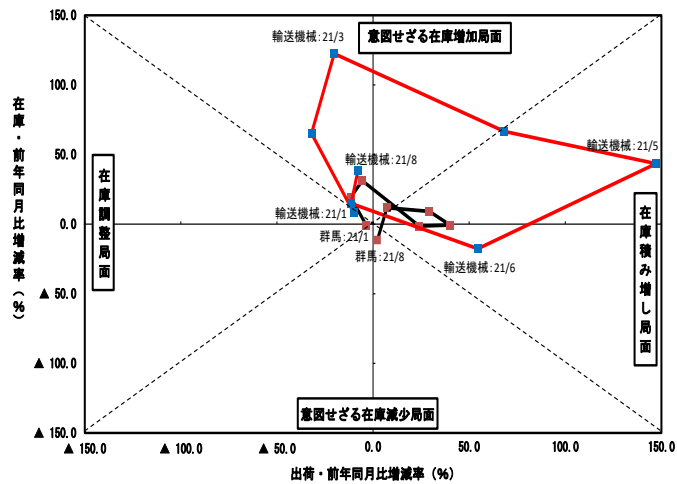


(2) 群馬県の「在庫循環図」

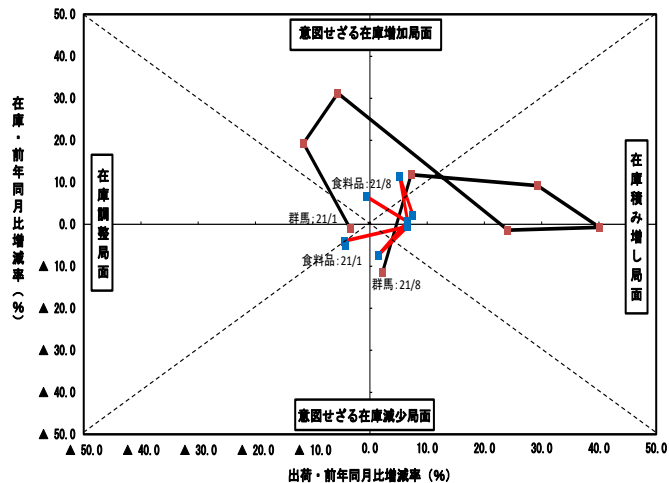
- ・ 県全体の「在庫循環図」は、今のところ本来の反時計回りとは逆の動きを示しているが、4月以降、景気拡張期に入り出荷の増加から増産、在庫の積み増しがみられ、「在庫積み増し局面」にある。ただ、8月は在庫が減り、「意図せざる在庫減少局面」となった。一時的なものか、今後の動向が注目される。
- ・ 本県で最もウエイトの高い「輸送機械」は4月から6月にかけて、出荷が大幅増加し増産が進んだため、在庫が大幅に増加し、「意図せざる在庫増加局面」から「在庫積み増し局面」、再び「意図せざる在庫増加局面」にシフトしている。
- ・ なお、本県には輸送機械では㈱SUBARUの自動車組立工場（太田市、大泉町など）など、食料品では即席めん類製造のサンヨー食品㈱の本社工場（前橋市）など、化学では医療用医薬品の研究・開発・製造の協和キリン㈱などが多数立地している。



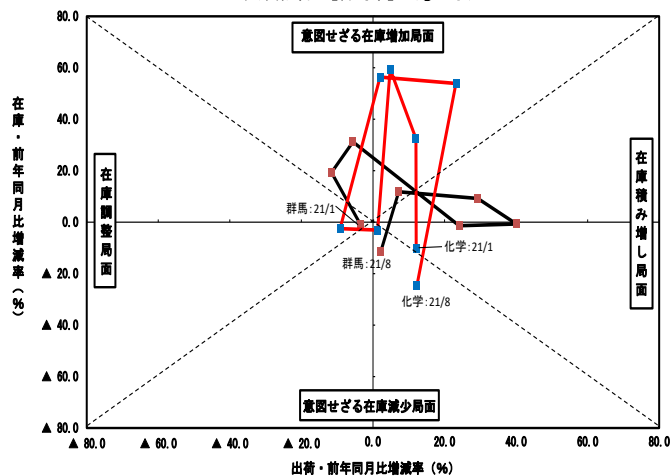
在庫循環図【群馬県】(①輸送機械)



在庫循環図【群馬県】(②食料品)

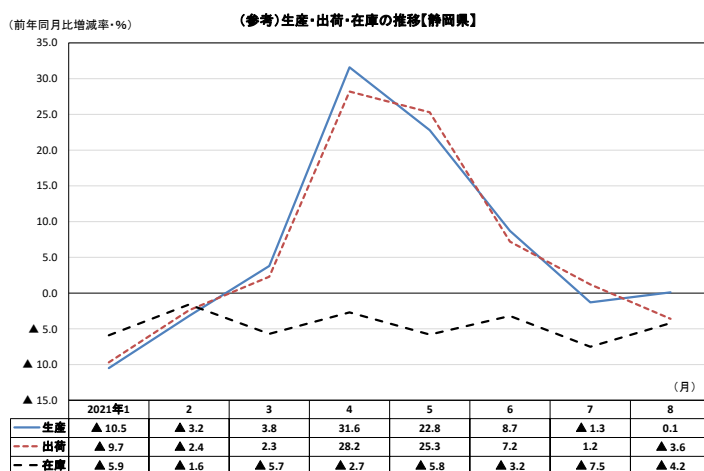
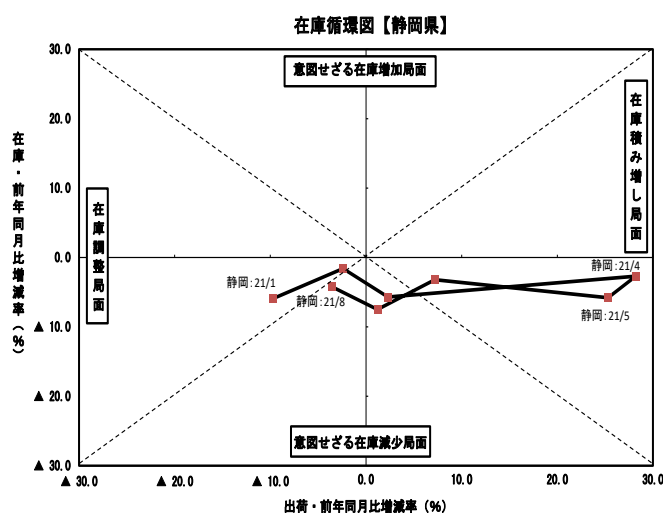


在庫循環図【群馬県】(③化学)

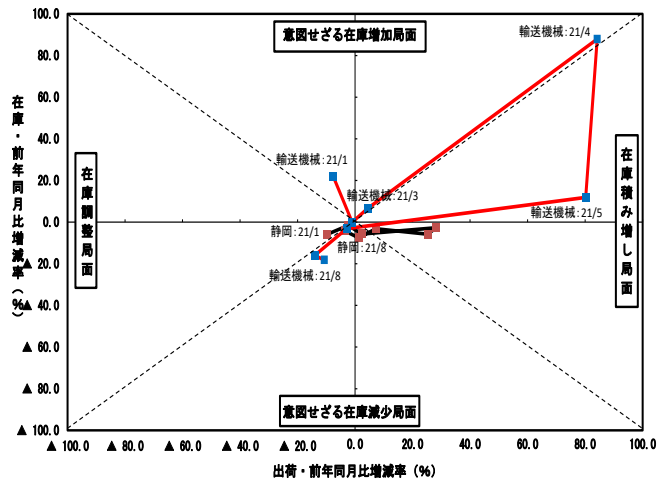


(3) 静岡県の「在庫循環図」

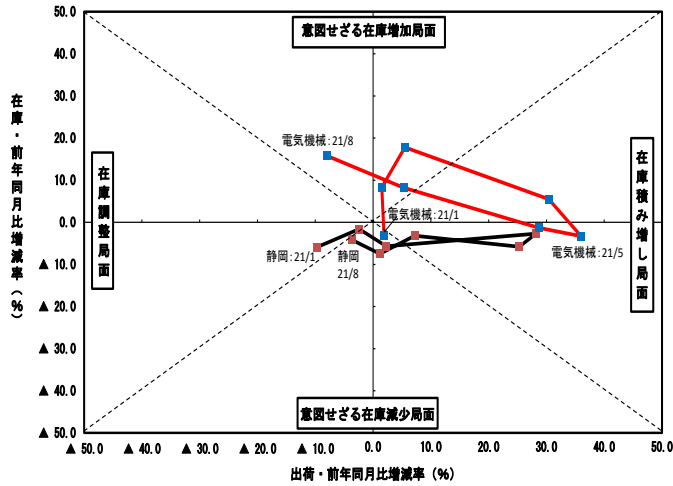
- ・県全体の「在庫循環図」は、本来の反時計回りとは逆の動きを示しているが、4月～6月は前年の反動もあり出荷が大幅に増加し、在庫が減少したため、増産となり、「在庫積み増し局面」にあったが、7月以降は出荷が伸び悩んでいるため、在庫はやや増加し、それまでの減少幅は縮小する可能性がある。今後、「在庫調整局面」に向かうかどうか、動向を注視する必要がある。
- ・本県で最もウエイトの高い「輸送機械」は3月から5月にかけて、出荷が大幅増加し増産が進んだため、在庫が大幅に増加し、「意図せざる在庫増加局面」から「在庫積み増し局面」にシフトしたが、6月以降は半導体不足や部品供給の制約などから生産は大幅に減少し、出荷も大きく落ち込んでいる。
- ・なお、本県には輸送機械ではスズキ(株)の軽・小型自動車、二輪車のエンジンなどの生産および組立工場（湖西市、磐田市、牧之原市、浜松市、掛川市など）やヤマハ発動機(株)の二輪車エンジンなどの生産および組立工場（磐田市など）、電気機械では光関連の電子部品や電子機器製造の浜松ホトニクス(株)の本社工場（浜松市）など、化学では化粧品(株)シャンソン化粧品（静岡市）や自動車用ケミカル製品製造の日本ケミカル工業(株)（静岡市）などが多数立地している。



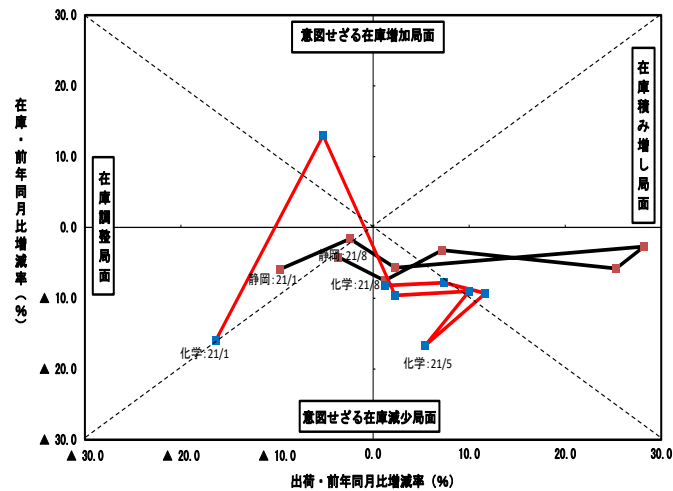
在庫循環図【静岡県】 (①輸送機械)



在庫循環図【静岡県】 (②電気機械)



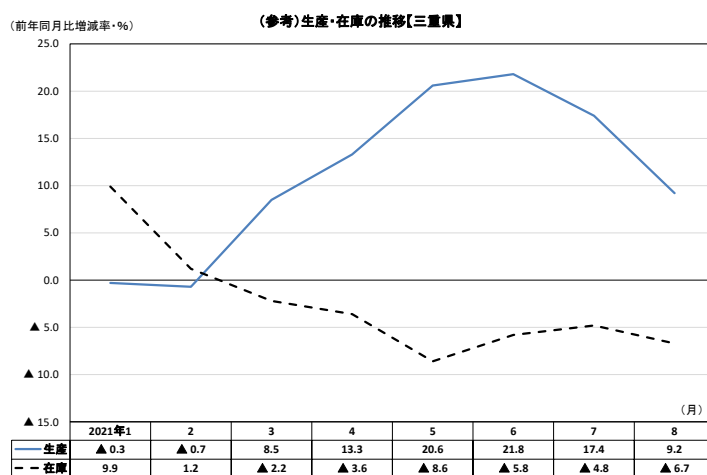
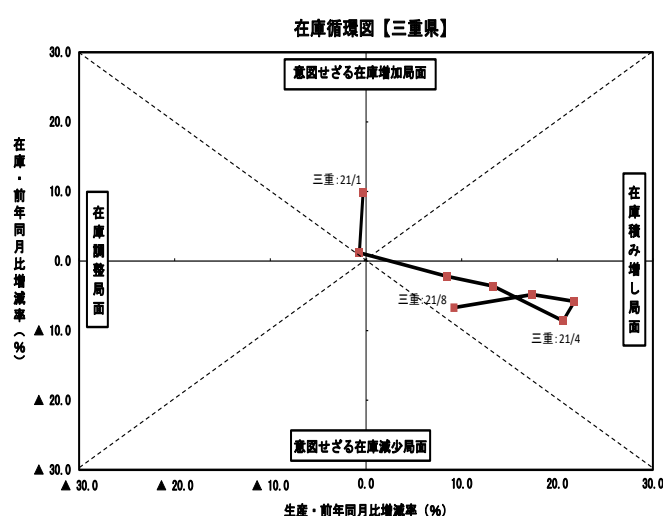
在庫循環図【静岡県】 (③化学)

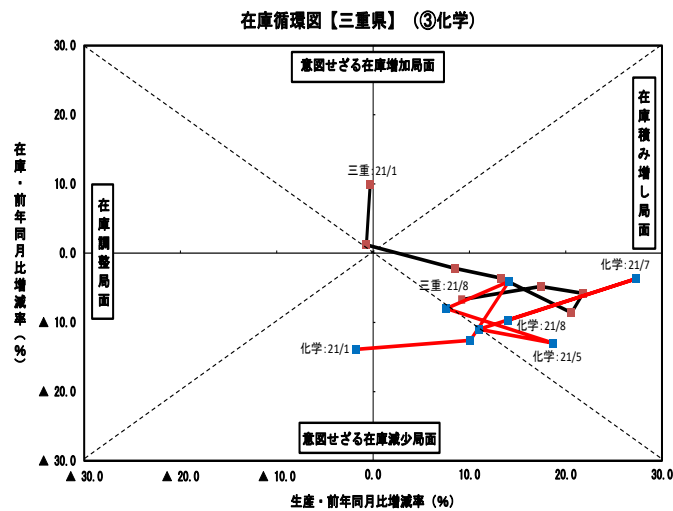
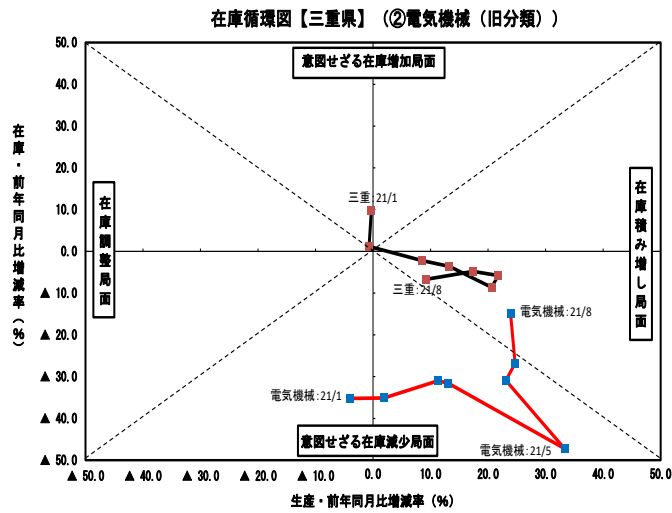
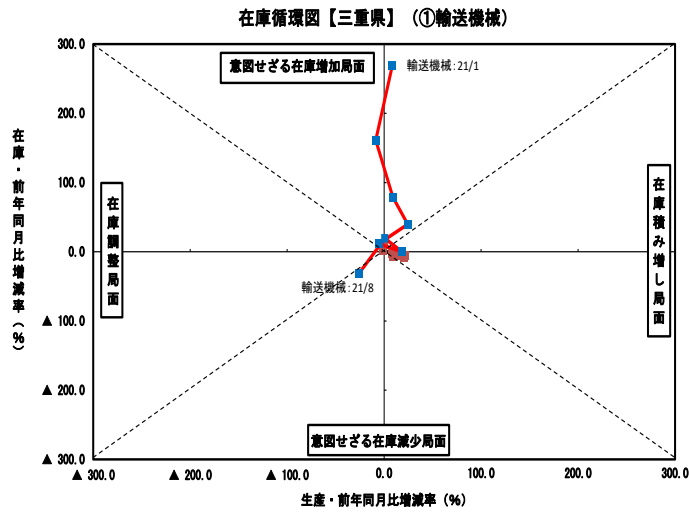


(4) 三重県の「在庫循環図」

(注：三重県では、出荷指数が公表されていないため、生産指数で代用した)

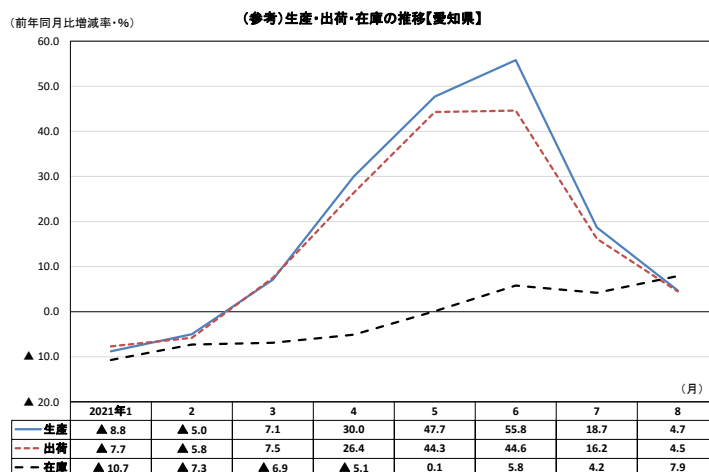
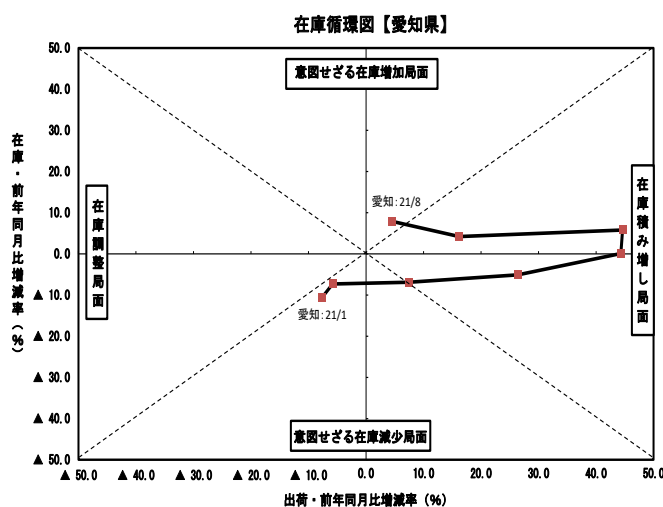
- ・県全体の「在庫循環図」は、反時計回りとは逆の動きを示しているが、3月以降、在庫が前年を下回るようになり、増産が続き、「在庫積み増し局面」にある。
- ・本県で最もウエイトの高い「輸送機械」は7月まで生産活動が堅調に推移し、在庫が前年を大幅に上回っていたが、8月は生産、在庫ともに減少した。
- ・なお、本県には輸送機械では本田技研工業(株)鈴鹿製作所の自動車組立工場やトヨタ車体(株)のいなべ工場など、電気機械では液晶パネルモジュールなどを生産するシャープ(株)の亀山工場や半導体封止材料などを生産する日東電工(株)の亀山事業所など、化学では自動車用や半導体用の化学製品を製造する三菱ケミカル(株)三重事業所（四日市市）などが多数立地している。

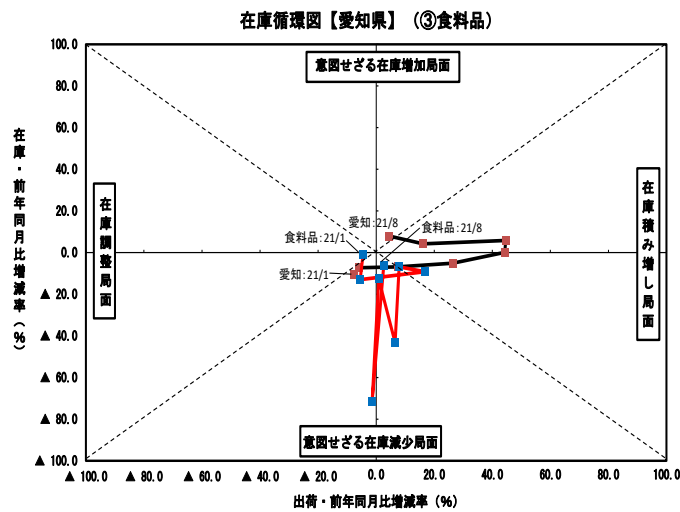
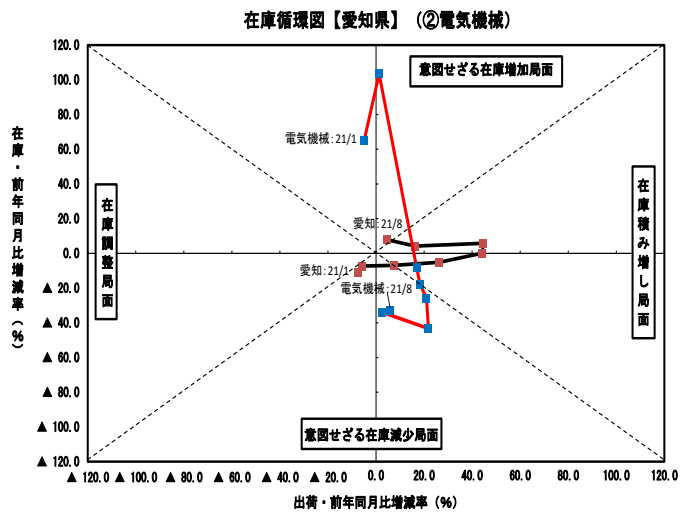
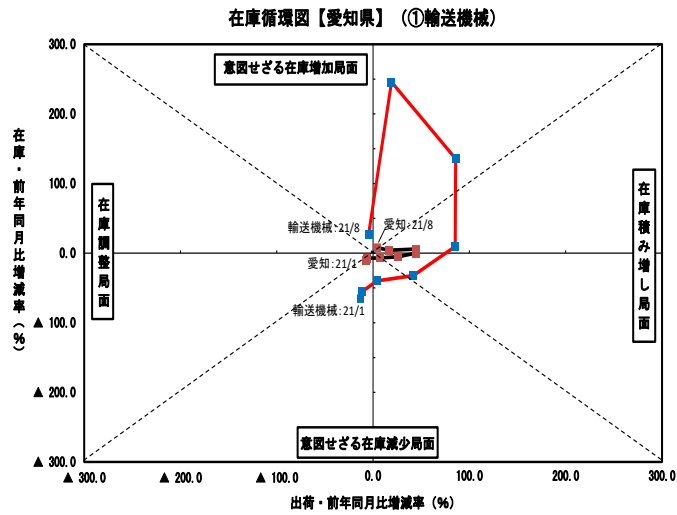




(5) 愛知県の「在庫循環図」

- ・ 県全体の「在庫循環図」は、本来の反時計回りに近い動きを示しており、4月から7月にかけて出荷と生産が大幅に増加したため、在庫に増加傾向がみられ、「在庫積み増し局面」にあったが、8月は在庫の更なる増加により「意図せざる在庫増加局面」に入ってきた。今後の動向が注目される。
- ・ 本県で最もウエイトの高い「輸送機械」は4月から出荷が大幅増加し増産が進んだため、在庫が5月以降、増加に転じ、「在庫積み増し局面」から「意図せざる在庫増加局面」にシフトしている。
- ・ なお、本県には輸送機械ではトヨタ自動車株をはじめグループ関連企業の工場など、食料品ではアサヒビール株名古屋工場（名古屋市）をはじめ森永乳業株中京工場（江南市）、キューピー株挙母工場（豊田市）、カゴメ株の上野工場（東海市）などの各種食品の製造工場が多数立地している。

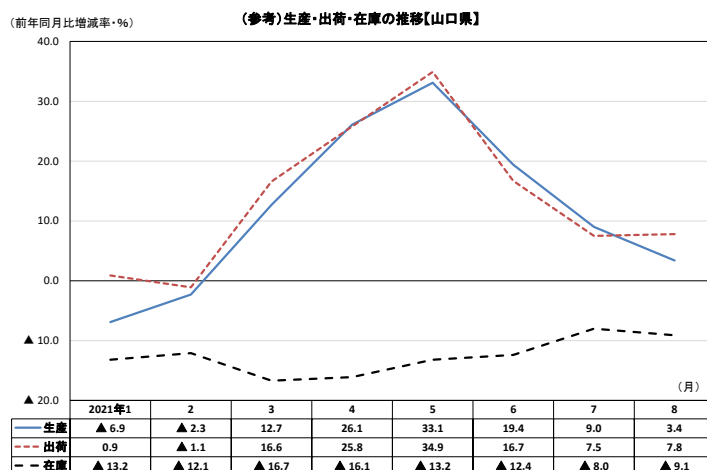
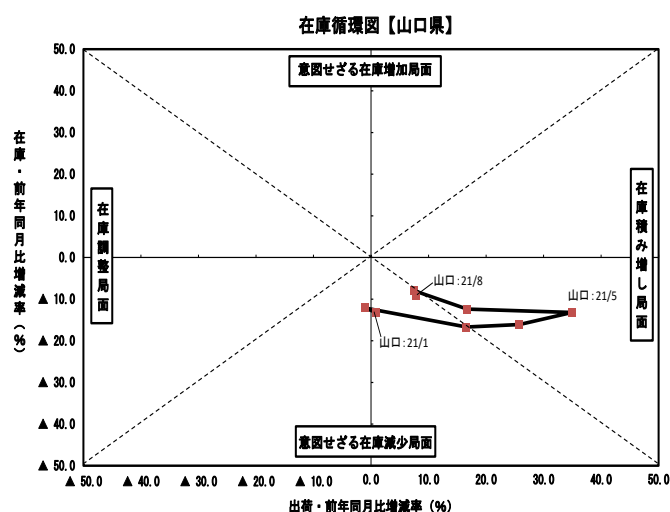


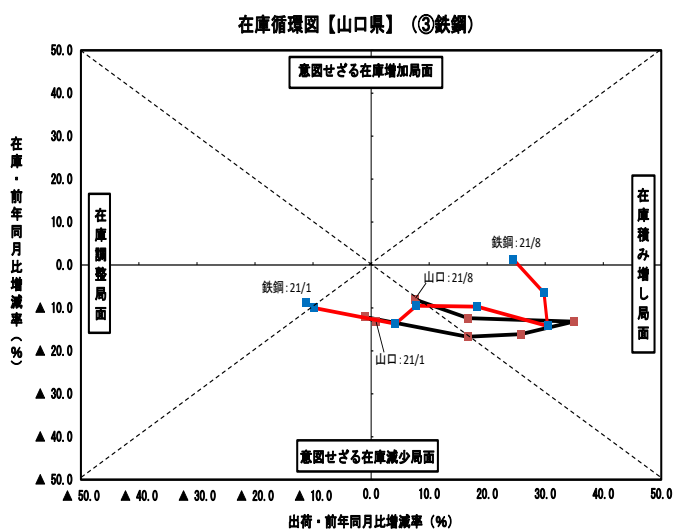
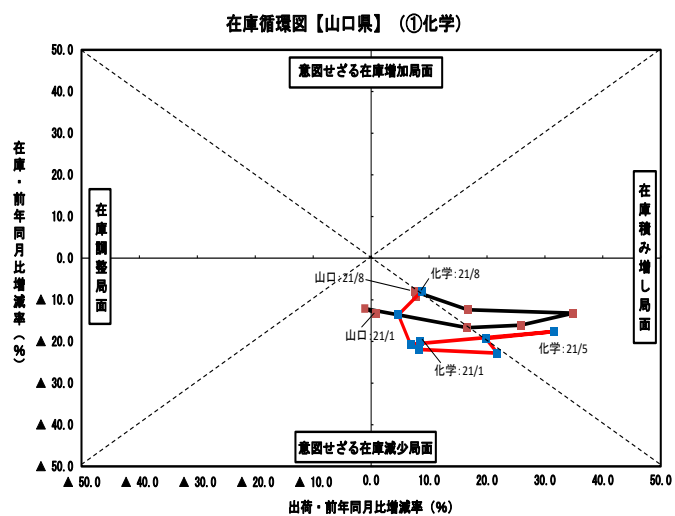


(6) 山口県の「在庫循環図」

(注：山口県では、「輸送機械」の在庫指数が公表されていないため、「輸送機械」のグラフは作成しない)

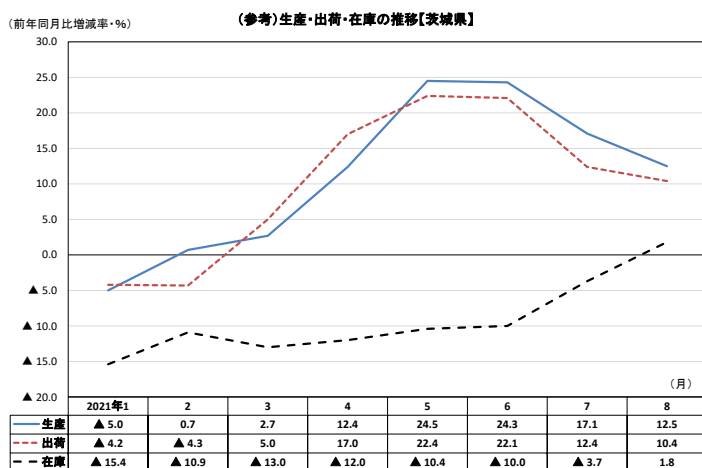
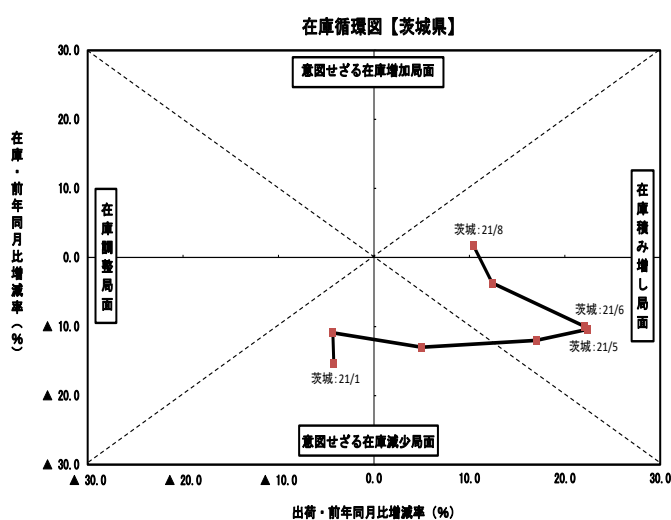
- ・県全体の「在庫循環図」は、完全な形ではないものの、本来の反時計回りに近い動きを示しており、3月以降、出荷の増加から増産、在庫積み増しがみられ、「在庫積み増し局面」にある。
- ・本県で最もウエイトの高い「化学」は、景気拡張期にあり出荷と生産がともに増加したものの、在庫は大幅の減少が続き、「意図せざる在庫減少局面」の近傍で推移している。
- ・なお、本県には化学では宇部興産(株)宇部ケミカル工場をはじめグループ関連工場、東ソー(株)や(株)トクヤマの工場など、鉄鋼ではコベルコ鋼管(株)や(株)宇部スチールなどの工場が多数立地している。

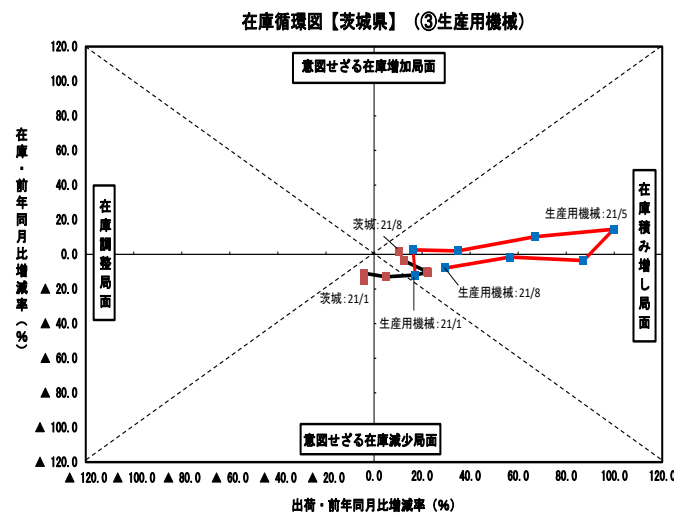
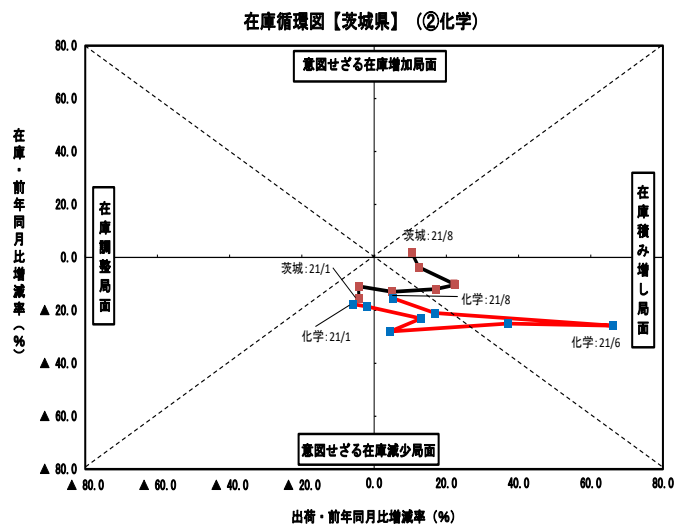
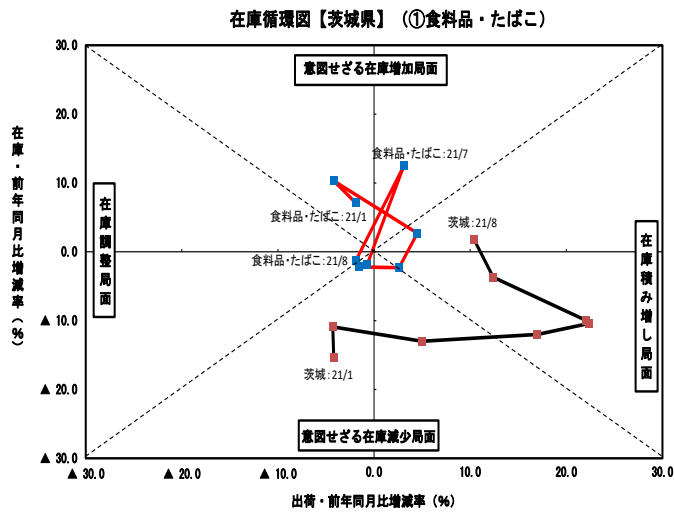




(7) 茨城県の「在庫循環図」

- ・ 県全体の「在庫循環図」は、今のところ完全な形ではないものの、本来の反時計回りに近い動きを示しており、景気拡張期の中であり4月以降、出荷の大幅増加から増産に入り、在庫積み増しがみられ、「意図せざる在庫減少局面」から「在庫積み増し局面」にシフトしてきた。
- ・ 本県で最もウエイトの高い「食料品・たばこ」については有意な動きがみられないが、次にウエイトの高い「化学」は3月以降、景気拡張期にあり出荷が大幅増加し増産が進んだものの、在庫は大幅に減少し、「意図せざる在庫減少局面」の近傍にある。
- ・ なお、本県には食料品ではキリンビール(株)取手工場をはじめ(株)ヤクルト本社茨城工場(五霞町)、キューピー(株)五霞工場、雪印メグミルク(株)阿見工場(阿見町)などの各種食品製造工場など、化学ではトナーカートリッジなどを生産するキヤノン化成(株)岩間工場(笠間市)など、生産用機械では工作機械等製造の(株)池貝のツクバ工場(行方市)などが多数立地している。





以上